
新説アンパンマン

ぽぽすみす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新説アンパンマン

【Nコード】

N5707A

【作者名】

ぽぼすみす

【あらすじ】

「みんなは彼の名前の由来を知っているかな？」一握りの人以外特に毎回必ずvideoにとっているチビツ子達は拳って「お顔がアンコが入ったパンだからでしょ？知らないの？だせえっつ」と小馬鹿にされる。そんな弁解の価値の無い輩はさておき、本題に入ろう・・・

第01話（前書き）

この話の元となる『アンパンマン伝説』を先にお読みください。

`http://nw.ume-labo.com/pc/main.
php?m=w1-4&ncode=N5214A&am
p:`

第01話

「みんなは彼の名前の由来を知っているかな？」

一握りの人以外、特に毎回必ず video にとっているチビッ子達は拳って、

「お顔がアンコが入ったパンだからでしょ？知らないの？だせえっ」

と小馬鹿にされる。

そんな弁解の価値の無い輩はさておき、本題に入ろう。

出生に関してはある人が文章でわかりやすく説明してくれたはずだ。

色々なものを入れていたが、肝心の『あん』には触れてなかった。

あんこのパンの男性Ⅱアンパンマン。

まあ、間違っではないのだが、厳密には違う。

普段はアンパンの男性、あんばんマンでそこにバイキンマンが奇襲をかける。

そこで奴は回避もせず顔を濡らす（なぜ濡れると弱るのは別の機会に・・・）。

回避もせずって言うか、回避できないんだよね。

あんぱんマンの能力だと。

で、バター子がパンを投げる。

すると、「元気百倍！！アンパンマン」と言う。

事実はこの言葉が全てだ。

だって、普通に考えて欲しい。

最初と同じパンなのになぜ、百倍？

それは、あんこのパンから麻薬のアンパンのパンにかわっていたからだ。

これには、色々と事情がある。

バイキンとただのあんぱん。

何をどう考えてもパンが勝てるはずが無い。

当初、あの世界は圧倒的な化学軍団にめちゃくちゃにされていた。

邪夢は自分の失敗作であるパンマン01に占領されていることが苦痛で、胃潰瘍によくなっていた。

出かけては、数時間後にかびだらけの体だけ玄関の前に置いてあり、重装備をして泣きながら体を洗う日々……

もうこんな生活には耐えきれない、そして、邪夢はあれの搭載に踏み切った。

魔薬・・・あんぱんにちなんでアンパン・・・・・・・・あんこの代わりにアンパンを入れて焼く。

成功するハズもない。

なにせ液体なので蒸発、残ったのは落とすのが大変そうな黒いこべりつき。

邪夢は洗い物が二つに増えても頑張り続けた。

ある日、疲れた人のための入浴剤『バブ』に癒されている時に閃いた。

そうか！！

工場で作られているシュークリームの要領で作れば良いんだ！！

早速パンツードでパンをこね、釜戸へ。

待つてる間に下扉のガラクタ引き出しから注射器を捜し出す。

そして、アンパンを注射器でパンにブツ刺し注入。

バター子に持たせアンパンマン号で出勤・・・・・・・・しかし、アンパンマンはいつもの通り玄関の前にかびだらけで置いてあった。

おお、哀れなあんぱんマン、これから覚醒してアンパンマンとなる

のじゃ！！

そして・・・

「元氣百倍！！アンパンマン！！！」

となるわけである。

彼が言っていることは嘘でわない。

元氣百倍、つまり、全ての能力が四捨五入して百倍になる。

しかし、アンパンのアンパンマンによって、新たなる問題が浮上した。

麻薬取締法違反の疑いで家宅捜査・・・もあつたが、一番の問題はアンパンの副作用である。

ドキュメンタリーの収録は元氣百倍！！アンパンマン バイバイキン happy endとなるのだが、収録が終わるに連れて精神が薬に耐えきれなくなり、アンパンマンが暴走を起こす。

町をぶち壊し、数時間あひやあひや連呼・・・結果は言わんでも解るだろう無論、こんな悲しい現実、バイキンマンよりアンパンマンのほうが狂暴なんてちびっ子達に放送できるはずが無い。

それでも、みんなバイキンマンに町が汚されるよりはましだ、と思っている。

だから、町のいたるところに対アンパンマン防護シエルターが完備

されているのだ。

第01話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第02話

さて、『アンパン』についてはこれくらいにしておき、次にいこう。

ある人の話で触れただけで詳しく語られなかった真実、「バイキンマンとアンパンマンの最終戦争」についてお話する。

ドキュメンタリー番組を見て分かるように、ほぼ毎日バイキンマンはアンパンマンを殺ろうとして町を襲う。

で、毎回覚醒アンパンマンに吹き飛ばされ、軍の病棟で目を覚ます。

誰もがみとめるだろうあの科学力。

しかし、まともな作戦練ったことあるかい？

勿論無い。

ある日、病棟での夢の中で亀様（僕は神様を亀様と言います）に問われた。

何がどうあれ、ただのあんこパン野郎の顔が変わったときから勝敗は決まっているのだ。

わかるかい？バイキンマンよ、なぞのパンを作りし者、邪夢を殺れば奴も死んだと同然。

ああーそうだよなあ、と感心する馬鹿な奴。

そうとわかればすぐ実行するのがバイキン軍団の悲しい性。

(計画ぐらいたてようぜ・・・)

『横浜毎日新聞号外！！邪夢失踪、殺されたか！？』

上野駅に群がるおかしな大人達は驚愕した。

『今朝未明、住所不定、パン職人の邪夢さんが姿を消した。アンパンマンがパトロールに行つて帰ってくる間の三十分、何ものかに連れ去られた。警察によると、すでにバイキンマンに逮捕状がており、パン工場内にはかびで「ガラパゴス」と印が残っていた。百人態勢で情報の収集にあたっているという。また、周辺に血痕が多く見られ、専門家は邪夢さんのモノであれば命が危ないと語っている。』

この時、アンパンマンは既に大きな戦いが始まることを悟っていた。

第02話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第03話

ガラパゴス諸島

「おまえか？邪夢おじさんを消したのは。」

「はっひふっへふー！さあ、どうかな？」

「ならばpowerでねじ伏せてやる！」

「・・・そのクソあんこ、未だにおめえは物事を冷静に考えられないのかい？」

「・・・その声は！！」

そう、その声の主は食パンマンだった。

「貴様、誰が俺たちパンマン達を作ってくれたか忘れて寝返ったなっ！！」

「おお、久しぶりだな、カレーパンマン・・・忘れちゃいないぜ、偉大なる邪夢じい。でも、俺の兄弟がバイキンマンに捕われているんだ・・・。そっちにつくと兄弟が殺されちまうんだよ・・・許してくれ・・・。」

ぱんまん02の最大の弱点、濡れると死亡、をどうにかしようと邪夢は03、04とぱんまん達を製造しようとした。

でも、何をどうしても濡れないパンなんかパンではない。

仕方がないので、02のようにあんこ又はアンパンの補給のいらない、半永久的に戦えるばんまんを考えた。

それが03、通称食パンマン。

しかし、作業工程の四倍の酵母菌を誤って入れてしまったがために、奥行が四倍長くなってしまった。

まあ、しょうがないので適当に四つに切ったところ、生命体が四つになってしまったのだ。

隠し味に使った金太郎飴が作用した結果だろう。

無論、02のようにアンパンを入れることができないため、そんなに強くない・・・はずである。

その後、通常時の攻撃力を高めようとばんまん04、通称カレーパンマンを製造した。

奴の攻撃方法、口からカレーを強力水鉄砲のように吐くことだ。

普段は副作用を避けるため、甘口が入っているが、戦いの時になると「邪夢印の特製香辛料ミックス」を大量に口から入れ、クルクルバットをする。

だから、吐くカレーは強くなるのだが、目眩が治まるまでの数分、暴走する。

そこらへんにばらまかれたやばいカレーを、ゴーグルと防臭マスク、

ゴム手袋など完全装備をして清掃する近隣の皆様のことを考えろつて！！

一般市民が皮膚に触れただけで爛れてくる・・・まあ、欠点はそれだけではない。

皆さんはカレーパンマンが自分の顔をちぎってあげているのを見たことがあるだろうか？

カレーパンマンは顔をちぎるのを禁止されている。

えっ？

見たことがあるって？

それは口ケが冬だったんですな。

冬は寒いのでまだ固化しているのだから、夏は・・・
E・K I・T A・I！！D O・R O・D O・R O！！うわあ、液体う　こ長いなあ～と思って歩いていくと・・・奴が倒れている。

「殺っちまいましょう！！アンコの兄貴！！！」

「早まるな、カレーよ。何か奴等の向こう側にいるぞ！！」

「がははは、あそこにいるのは俺がメディアファクトリーに無理を言って頼んだ増援部隊だ。」

「ふん、だからどうした。こっちだって味方ぐらいよんどるわい！
！そろそろ来るはずだが・・・プルルル　プルルル　もしもし、

磯野さん？・・・は！？北の將軍様がテポドンブツぱなして緊急防衛態勢に入ってたって！？・・・シエルターはペット禁止だから庭に防空壕掘って忙いから行けない？へゴオオオオオオオ・・・」

ブーッ、ブーッ、ブーッ・・・

「ふん、神は我に微笑んだか。これまでだな、アンパンマン！！」

「メロンよ、まだ奴等とはcontactできんのか！？」

「日食連（日本食品連盟）はテポドンで哀れにも生き残ってしまった首都圏のpeopleに我が身を犠牲にしてお口に特攻している、とのことです。あ、でもマンマン隊を派遣してくれるそうです。」

ぱんまん05、通称メロンパンナは邪夢が助手として製造したものだ。

助手は女しかない、と思いこんでいた邪夢は当時女子学生に人気のあったメロンパンを使用した。

血中糖濃度が脳回路の速さに比例するので、顔にsugarをいっぱい付けといて常時補給できるようになっている。

あと、nameだがさすがに「マン」を付けるのは可哀相なので名前に付けたい文字best1の菜をつけた、がそれだとパンなのか葉っぱなのかわかんないのでカタカナにしパンナになった。

「マンマン隊か！我々の従兄弟だな、そいつは心強い。皆、彼らが来る迄生き抜け！！！」

第03話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第04話（前書き）

元ネタわかるでしょうか？わかったらコメントください！！

残り、800500人。

〈第2回戦〉

ボウリング。

こんな島でそんなことできんのかいと、思うかもしれないが、普通のとはちよつくらルールが違う。

両軍は一向き合い、玉は自軍の兵、ピンは相手の兵。

わかるかな？

簡単に言えば突撃特戦。

自爆、大爆発が炸裂！！！

開始十三秒で暴撃隊の捨て身攻撃を食らったアンパンマン軍は町内会のpeopleを失った。

「グヌヌヌ・・・、マンマン隊の出撃を許可する・・・」

マンマン隊とは、まんの男たち、つまり、肉まんマン、あんまんマン、カレーまんマン、ピザまんマン・・・とかのこと。

なんと言っても、一番の特徴はその体にあり。

あの呼吸するのを忘れてしまうほど、まあいーるい円形。

長距離戦闘用仕様なのだ。

あんまん、肉まんは孤立してしまった部隊へのエルネギー補給用、カレー、ピザは劇薬を入れて敵を溶かす攻撃用。

「カレーまんマン隊、一番から4番装填、発射！！同時に二時の方向、右回りに秒速30メートルの回転をかけ、発射！！！」

これを知らないバイキンマン軍はカウンターができる奴等を前線に出して対抗した。

まんマン隊にカウンター、一番やってはならないことだ。

カウンターでマンたちの皮を裂いた瞬間、慣性の法則にしたがつて具が飛び出てきて、後ろにいた攻撃部隊にもブツかった。

さらに、混乱に陥った奴等を後ろからピザまん達が不意打ち！！

アンパンマンの怒りの放火は一挙にして主力部隊の九割を壊滅させ、士気を大幅に下げた。

残り、アンパンマン軍9000、バイキンマン軍80000。

第04話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第05話（前書き）

元ネタわかるでしょうか？わかったらコメントください！！

第05話

〈第三回戦〉

「くっ・・・野蛮な生き物兵器を使いやがって、こっちの科学技術をなめんなよ!!!」

「ほおう、チャカときたか。我らの得意分野だな。」

そして、戦闘はゲリラ戦へと発展した。

しかし、なんと絶対に実現不可能とされていた、レーザーガン部隊がバイキンマンの手元にいた。

「所詮ポケモンはポケモン、役に立たない生命体さそんな奴等よりこっちの方がどんなに役に立つことか・・・」

簡単に説明すると、太陽からの紫外線にある、殺傷力の高い波だけをソーラーパネルみたいなもので大量に蓄め、圧縮してレーザーポインターの原理で一点に放出する。

まあ、それ以上細かいことは、今の人間にはチヨロキユで首相官邸に深層水イモケンピを配達するくらい意味不明な話だ。

これから疑問に思ったことがあっても、そういうことなので、流してね。

「隊長、波補給完了です。」

「よし、フォーメーション 展開！レーザー機動隊はぎりぎりまで引き付けるよ！！カレーよ、コレクションのために高い金を払ったわけでわないぞ。戦争用の強力な兵器なのじゃ。それを、今更何を躊躇う！使わねば勝てぬぞ、この戦は！！！」

「分かつてるよ！でも、地上への汚染被害が・・・」

「じゃかましい！！！每秒80000以上の玉が飛びかねないのだぞ！あんな奴だけには負けたくない・・・今までおちゃらけていたが今回で決着が着く。全隊、配置に着け！！！！勝って終わらねば意味が無いぞ、心してかかれい！！！」

「全軍、構えっ！射ち方始め！！！」

バイキンマン軍はアメリカ軍から支援を受けているため、自動機関銃が大半を占めていた。

80000の兵全員に武器を持たせる財力を奴は持っているはずも無い、とたかをくくっていたアンパンマンは9000の兵に普通のショットガンと癩癪玉しか持たせてなかった。

ズダダダダダダダ・・・

アンパンマン軍は前方120度から迫ってくる大量の鉄の固まりを見て、なんとその玉を玉で弾き返した。

素晴らしい！としか言いようの無い光景。

アンパンマンとその側近はアンパンマン号に搭乗し、作戦の為飛び去った。

アンパンマン軍は打ち返すだけでなく攻撃に転じ、兵を進めていった。

ここで矛盾が起こる。

なぜショットガンがマシンガンに勝てるかだ。普通に考えてありえない。

実はバイキンマン軍は500人しかマシンガンで攻撃していない。

すごいよね、マシンガンの性能。

500人で毎秒800000発撃つ・・・残りの兵はどうしたかった？それは次の通り。

マシンガン隊500

レ	7
—	0
ザ	5
—	0
隊	0

アンパンマン軍8900

おわかりになったでしょうか？

アンパンマンがいないアンパンマン軍はただ進撃するだけで作戦な

ど考えてなかった。

そして・・・アンパンマン軍がちょうどレーザー隊の前に差し掛かった。

カチッ！カチッ！カチッ！・・・

島全体にエアガンを空打ちしたような乾いた音が響き渡った。

8900人のアンパンマン軍は光の速さで進むレーザーの音を聞か聞かないかで全滅した、風船のように弾け飛んで。

残り、バイキンマン軍80000人、アンパンマン軍1000人。

第05話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぽす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第06話（前書き）

元ネタわかるでしょうか？わかったらコメントお願いします！！

第06話

事態を察したアンパンマンは意を決した。

「ヌウオオオオオオオオ！！！！・・・証明弾、並びにカビキラー一番から九番用意・・・続いてトマホーク全弾照準・・・うてえええええ！！！！！！」

勝利を確信したバイキンマン軍に凄まじい閃光が・・・

そして、滝のごとくカビキラーが降り注ぐ。

カビルンルンが軍の大半を占めており、70000の戦力消失、間一髪避けた奴に間髪入れずトマホーク、全滅かと思いきや、たった3人の奴が立っていた。

「アンパンマン！お前が正義なら正々堂々一騎打ちしろ！！！」

「・・・無駄な足掻きはやめろ・・・所詮、お前のところは第五師団だ・・・」

実は、バイキンマン軍はドキン軍第五師団バイキンマン分隊だったのだ。

ちなみに五つあるうち一番弱い。

「そんな・・・もう少し猶予を・・・」

「では、なぜアンパンマンを今まで倒した事がないのだ？」

「・・・奴に華を持たせてやってたんです！しかし、ドキン軍再編の噂を聞き、ついに殺ろうと決心したのです！まだ我々は負けた訳ではありません。もう少しお時間を・・・」

「おお、よく知ってるな、軍事収縮が閣議決定したことを。明日から第五師団であるお前の隊は第一師団救護隊、並び艦内整備隊に所属することになった。伝えに行ったが門番にガラパゴス諸島に行つたと言うから、来てやつたらこの様だ。もうこれからはお前は前線に出ることはない。まあ、軍曹にしてやつただけでも有り難いと思え。・・・・・・・・・・」

バイキンマンはショックで声が出なかった。

「そのアンパンマンとか言う奴、その兵力でよくぞコイツを倒せたと誉めてやりたいとこだが、私が来てしまった今もう生きて還ることはできない・・・」

一言二言言つと山の向こうに消えてしまった。

だが、次の瞬間とてつもないサイズの戦艦が浮上してきた。

と、よく見ると島の周りをイージス艦が囲んでいるではありませんか！！

すると、ドキンの戦艦はあのバイキンUFO、ドキンUFOらしきモノが十体ほど出てきた。

中に居るのは何者が確認できない。

まあ、確認できるのはトマホーク級の追跡ミサイルが二本くつついていることだ。

イージス艦がすぐに迎撃するも虚しくかわされ、危ないUFOの奇襲により一掃されてしまった。

そして、UFO達は反転しアンパンマン号の方へやってきた。

「緊急離陸！！推力最大！！！！逃げ切れええええええ！！！！！！」

さすがのUFOでも、アンパンマン号の推力にはかなわない。

「アンパンマン、あの戦艦の主砲がこの船に照準されてるわ！！」

「左舷ブースター全開、回避！！」

「ま、間に合いません！！！！」

一難去つてまた一難、コックピット直撃は避けられたものの、重要な第三エンジンに被弾した。

「ラミネート装甲、廃熱追い付きません！三番から五番ドック閉鎖、本船損傷率三十%超えます！推力60に低下、ダメです、墜ちます・・・」

「くっ・・・面舵20、総員衝撃に備えよ！！」

ズゴゴゴゴオオオオオオ・・・

アンパンマン号は珊瑚礁帯に着地した。

「再び本船に照準を確認!!」

「ええええい!!! 小型機を使うぞ! コックピット以外の乗員はすみやかに下船しろ!!! 敵主砲発射直前に全速前進! あのボロボロのキモイ船を殺るのだ! 撃てえ!!!」

バリバリバリバリ・・・

空間が避けたような音とともに、水飛沫が島全体を覆った・・・

第06話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第07話

「よし、終わったな・・・」

「ドキン元帥、当艦に何か接近しています・・・光学映像を御覧ください。」

それは、アンパンマン号の鼻だった。

アンパンマン号には最後の脱出機能として、鼻のどこにあるコックピットごと飛んでいくのだ。

それがものすごい速度でドキンの戦艦に突っ込んでくる。

迎撃を命令する間もなく、鼻は戦艦に着艦し、艦内に警報が鳴り響いた。

「艦内に何者かが侵入！！コンディションレッド発令！！至急撃破、もし可能ならば生け捕りにせよ！！！！」

ドキンの戦艦に何とか潜入できたアンパンマン号クルーはそれぞればらばらになり、ドキン軍に壊滅的なdamageを与えるchanceを待った・・・

一時間後・・・

二時間後・・・

いつのまにか五時間たったが、事態は変化せず、アンパンマン達は

カビルンルンがいるせいで空気が湿ってきて、弱っていた。

意識が薄れてきたその時！謎の声が聞こえた。

「アンパンマンがんばれー！！」

「おお、まさにこれは俺のことをちびっ子達が応援してくれているのだな！」

もちろん、こんな場所でそんなものが聞こえているハズもなく、ただの幻聴だった。

だが、頭がグラグラのアンパンマンが気付くわけが無い。

「でも、僕は・・・愛ちゃんと勇気君だけが友達なんだ！おめえらに頑張っってって言われる筋合いはねえんだよ！！！」

パンの湿りぐわいが最高潮になり、痴呆レベルと化してしまい、意味不明な言論を連呼するようになった。

さすがにこんな大きな声で怒鳴っていると・・・・・・・・見つかる。

「汝は誰ぞ。」

カビルンルンはなぜか歴史的仮名遣いで喋らないといけないらしいが、アンパンマンには、

「ナニ？腹は減った？じゃあ、俺の顔やるから我慢しな！！」

と聞こえたらしく、カビルンルンの口に強引にあんぱんの欠片を押

し入れた。

「・・・お・おいしい・・・これが邪夢が作ったあんぱんか・・・
おいし・・・・・・ぐわああああああああ！！！！
！！」

そのカビルルンは白目を向き、痙攣して倒れてしまった。

不適な笑みを浮かべているアンパンマンの手には、青酸カリっぽい
粉のビニール袋を持っていた。

そう、時々ペットが泡を吹いて死んでいる、と言う事件を耳にする
が、全部彼のせい。

正義のヒーローは何をしてもいいのだろうか？

・・・そうこうやってるうちに自分の顔に限界が来た。

目と鼻と口しか残っておらず、機能停止寸前だった。

そして、デジモンのあの音が聞こえてきた。

「ピーツ、ピーツ、プーーツ、プーツ・・・」

その時、凄まじすぎる音と共に光に包まれた。

まあ、正確に言えば、ちょうどアンパンマンのいた場所の横が切り
離され、その衝撃で空中に放り出された。

「ほおおおおら、アンパンマン！！新しい顔だよ！！！！」

そして、決めゼリフ。

「元氣百倍！！アンパンマン！！！！この声は！！！！邪夢おじさん！？いや、バイキンにやられたはず……」

そんなことを思いながら時速2百キロで落下しているアンパンマン達は大きな何かに回収された。

その何かは戦艦であつた。

また、ドキンに捕まつたのか、と考えたが、実際にパンが飛んできた事実がある。

「パンマンの顔を作れるのはバアタコ、邪夢、ぐらいしかいなく、この感じは邪夢がコネコネしたものだ。どういふこつたい！！！」

すると……まえから誰が歩いてきた。

でも、完全なる一本道、逃げ道なし。

「邪……いやいや、そんなはずはない。罠だ、これは罠だ。怪しい奴はもちろん撃破しかねえべさ。アアアアアンパアアアアンチイイ！！！」

「グハッ！！！」

第07話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第08話

あなたは謎の人物が、

「グハッ！」

と言ったと思ってますね？

正解と言いたいところだが、ハズレ。

アンパンマンがその衝撃で吹っとんだ。

「・・・甘いぞアンパンマン、パンチに気が入っていない！！！！だからいつまでたっても奴を殺れないのじゃ。」

「邪夢おじさん！！今まで何処に行ってたんですか！バイキンマンにやられたと思ってこれだけの犠牲を払ってきたのに・・・」

「はあ？あんなクソにやられるわけがあると思ってんのか？？私はアメリカ航空宇宙局、通称NASAからの依頼で宇宙へ出ていたのじゃ。何せ、内密かつ早急に言うことだったので。めんどくさいから断ろうと思ったが、内容を聞いて気が変わった。」

『ノストラダムスノダイヨゲン、シッティマス力？』

『ああ、1999年7の月、恐怖の大魔王が降臨し、人類は滅亡する、じゃろ？そういえば、来週だな。アメリカ政府が大丈夫だって言ってたやつね。』

『ソレハ、セカイノヒトビトガ、パニックニナライヨウニ、イッタモノデス。ジッサイハ、プルトニウムヲトウサイシタ、ドセイタンサキ、カッシーニガアンテイキドウカラハズレ、チキュウニツイラクスルコースヲトツタミタイデス。ワレワレガ、ハサイサギヨウヲオコナイタイトコロデスガ、ミサイルヲノセルト、オモスギトベナイノデ、ジャムサンにオネガイシタイノデスガ・・・』

『はあ？何でアメリカの技術でそんな低レベルなことができないのじゃ！！・・・まあ、良い。地球のため、その依頼お引き受けしようぞ。』

つていうことになり、資金を貰ってレイの新型艦を対宇宙戦に適應させ、飛び立ったのさ。まあ、エンジンが強いから、大気圏の通過も降下も大したことはないのじゃが（どんなエンジンだよ！）、なにせ相手がプルトニウムだからな、磁力で遠くにやってバツコオオオオンじゃ！！あの光は花火よりも綺麗だ。唯一、ミスったとすれば、気象衛星ひまわりを左翼にぶつけて粉微塵にしたことぐらいだな。ともかく、作戦成功。で、パン工場に戻ってきたら村の民から全員いないことに気付いた。そして、さ迷うこと数分、A M r a d i oから『ガラパゴス諸島付近で何物かによりージス艦隊が全滅』の知らせを聞き、もしやと思い、来てみれば・・・何だこの有様は！！愛しのアンパンマン号を壊しよって！！今度こそぶつ殺してやる、と思ったが、鼻がワケのワカラン飛行体に刺さったので、事態の緊急性を感じ、ライトサーベルでそいつの格納庫らへんを切り落とした。そしたら、おめえが出てきたのじゃ。あまりにも突然のことだったから、とりあえずパンを投げた。そしたら衝撃で猛スピードでこの船めがけて突進してきて、ただの長い通路の非常口から入ったのさ。で、今に至る。で、戦況は？」

「宇宙いつてただあ？今までに犠牲になった奴は無駄死にかよ！！

！なんてこつたい！まあ、状況は自軍100人弱、向こうは未知数であります。バイキンマンの上にいるドキン軍の科学力は凄まじいっすよ。アンパンマン号が全く歯が立たなかったし・・・」

「バカモノ！！アンパンマン号は移動専用だぞ！！兵器って言うたつて、たいしたものは積んでない！！だてに五十年パンこねてるワケじゃねえぞ！！なめるな！！ドキン軍よ、パン屋の力、思い知るが良い！！！！この世で一番強いのはパン屋だ！！！！！！！！！！」

「それは失礼いたしました。では、さっそく指揮を・・・」

「ワシもおまえも出る！指揮は艦長に任せてある！！」

「出るつて・・・何かあるんですか？」

「まあ、見てのお楽しみじゃ！！総員、第一戦闘配備、特務班はデッキヘ！！！！」

第08話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第09話

その頃、ドキン軍は・・・

「格納庫破損！！アンパンマン一行はunknownに回収されました。」

「・・・unknownは何処に？」

「・・・それが・・・LOSTしました・・・いや、後方に戦艦クラスの巨大な熱エネルギーを感知！」

「？んなもの何処ににいるというのだ？熱探知機の故障だろ。」

「そんなはずは・・・」

邪夢軍では・・・

「ミラージュ装甲から電解装甲に切り替え、同時に特務班を1・2デッキから射出！！射出後、本艦は残りのドキン軍各師団を一掃すること任務といたします。定刻ヒトヨンマルマル、作戦開始。」

アンパンマンは邪夢から受け取った機体の細かなチューニングをしていた。

起動画面には『Junction Ahyaahya Mind
3』と書いてあった。

無理に訳すと『あひやあひや（痴呆気味な、頭のいかれた）ってる気の接合機3号』、要するに装甲の厚さは己の精神の乱れにに比例する機械ということだ（開発者自体いかれてるので）。

そんな馬鹿げた名はいくら何でも不味いと思った邪夢は頭文字を取って『J A M 3（ジャムさん）』と公表した。

そのおかげで邪夢さんが作った3号機だからJ A M 3と呼ぶのだと勘違いしてる者が多く、先の事実を知っているものはパイロットと邪夢と博士ぐらいだ。

実はJ A M 3のAは最初a t o m i cだった。核 それは人類が作り上げた最強のエルネギー しかし、一握りで島が吹き飛ぶ物が何機もあつたら、万が一の時凄まじい被害を被る事になりかねない。

だから、核動力を断念、新たなエルネギーとして精神を検討してみた。

精神は高度の能力を持った動物、人間の賜物。

エルネギーとしては問題ないらしいが、人から精神を吸い取り過ぎると・・・一生放心、つまり植物状態になってしまう。

即ち、パイロットは強靱な精神の持ち主でなければならず、俗に言う気孔師が適している。

で、何だかんだで世界中からすぐ腕の気孔師を招き、戦闘技能を身につけさせ、特務班を結成したのである。

なぜ精神エルネギーなのに A h y a a h y a M i n d なのかって？

それは平常心より怒り狂った心の方がエルネギーが無限大だからだ
(正常な判断ができなかったらどうすんだ!!)。

あ、話をしているうちに定刻になったみたいだ！

(邪夢軍)

「定刻通り本艦は任務のため離陸いたします。特務班はブリッチから襲撃態勢をとってください。」

(ドキン軍)

「ん？熱探查機に異常はない？じゃあ、謎の熱源にパルスレーザー照射せよ！」

ズギヤヤヤヤアアアアン・・・

パルスレーザーは何かに当たり、煙がたちこめていた。

視界が回復した時、ドキン軍は邪夢軍の一部始終を理解した。

謎の熱源は勿論邪夢軍の戦艦であり、レーザー照射寸前で電解装甲に切り替えたので、電子兵器であるパルスレーザーは分解され塵となった。

なので、艦自体は無事だったが、ちょうどブリッジから発射された

特務班はというと・・・不意の攻撃だったので気が緩んでいた数機が姿を消していた。

その他は精神力が高い、つまり装甲が厚かったので多少焦げた程度で済んだ。

あ、J A M 3の装甲はb r e a dだから（笑 もうわけらんね）。

「（邪夢）皆、ここからは気を引き締めないことは死を意味するのじゃ！！わかったか！！！！特務班、あの忌まわしいヘンテコ船を潰すぞ！！！！！！」

第09話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第10話

JAM3の搭載武器は、ちょっとしたエルネギー系兵器と・・・

ドオオオオ、ピキュンピキュン、ドオツ、ドオツ、ピキュン・・・
(ブースターで激しく動き回りながら、攻撃する音。考えを文字化するの難しいね・・・)

あまりにも素早く動き回る邪夢達にドキン艇は回避する時間もなく、一方的にやられるしかなかった。

雨が降っていて太陽光が無いため レーザーも使えず、例のUFOも発射口で待ち伏せされていたため全滅。

「センサーの70%にdamage、125から153ブロックまで閉鎖、推力50%に低下!!!」

「近くに友軍基地は!？」

「第一師団がありますが、現在休暇中なので皆不在です・・・」

「・・・仕方ない、潜水シーケンスに入れ!あのクソ軍曹の所に行ってくる・・・」

必死に消化活動に励んでいるバイキンマン軍曹を個室に呼び出し・・・
・ついに真実が明かされた・・・

「元帥!俺を使う気になりましたか!?何でもやりますゼイ!!」

「・・・こうなってしまった以上、おまえを使うしか手はない・・・おまえ、つまりパンマン01はなぜ、他のパンマン達のようにパンではなく、しかも補給しなくて済むのか知ってるか？」

「そういえば・・・」

「森の中で珍しい生物がいて、捕獲した。調べとみると、そこそこの科学力があり、標本にするには惜しかったので我が軍に迎え入れた。だが、戦闘訓練では竹製の水鉄砲ですら瀕死状態になるという弱体ぶり、数時間に一度、邪夢のところのパンを付け替えねばならないというめんどくささ。どんなに暑い夏の日でも私は返送をし、有りったけのパンを買い占めて行ったものだ。しかし、事件が起きた。番犬には見えないチーズにコートを噛まれ、脱げてしまったのだ。その日から邪夢に目を付けられ、堪え忍んだわけだが、我慢の限界が来て、武器を持って話し合いをしようと思った。だが、邪夢は怯える様子もなく、こう言い放った。『私は5154銀河連盟所属第25宙域監査員の邪夢だ。わかるな？もしこの星に危害を及ぼすことがあれば即刻消す。』本当に焦った。発足当時は日本の自衛隊ぐらいの戦力しかったが、宇宙制覇の夢に燃えていた。こんなところで夢を捨てたくなかった私は、お前を核動力にし（そのため、頭から出る高温の水蒸気がツムジから出ており、後ろを通った数人が毎日爛れ死ぬ。）、私の全てをインストールした、邪無を倒すために。しかし、奴もパンマン02を作っていたために今日まで至るわけである。要するに、神風特攻をせよ。安心しろ、すぐにこの世の苦から解放できる・・・」

そう言うと怪しい注射を瞬間でバイキンマンの首筋に刺した。

NEUTRON bomb発射型バイキンレールガンにバイキンマンはセットされていた（NEUTRONは頭文字を繋げたもの。最初のNはnuclear。後の単語は現文明には訳語が無い！）。

核動力と言っても、そこらへんの物と比べてはならない。

プルトニウムよりはるかに放射性が高い原子（原子番号151、もちろんIUPAC 国際純正・応用化学連合に報告するハズもなく、正式名は無い。愛称はミュウ！）を使用し、原子圧縮技術を使い1000分の1まで縮小。

臨界点に達した時に元の大きさに急激に戻るため、素晴らしいとしか言いよつた無いエルネギーが放出される。

しかも、爆発寸前に爆風範囲も指定でき、その球の外にどのくらいの放射能漏れが起こるかというところ、君たちが今携帯のバックライトから浴びている量と同じくらい。

おお、なんて地球に優しい最強兵器なんだ！（そういう問題じゃ・・・）

ちなみに5154銀河（この地球がある銀河ね）を爆風範囲とすると、1立方キロメートルにファットマン（太平洋戦争で日本に落とされた原子爆弾）一つの被害。

想像してください、ガラパゴス諸島を爆風範囲とした時の有様を・・・

第10話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第11話

改造されたバイキンマンUFOが突如邪夢達の前に現われた。

「（邪夢）あれに乗っているのはドキンじゃ！せっかくだからレーザーではなく、究極必殺技を使うぞ！！ホォーメーション2 r
|| 3じゃ！！！」

「邪夢のおやつサン！あれはどう見ても六回五百円で取ったUFO キャッチャーのドキン人形じゃないっすか！！！！これは罠です！S
t o p i t !」

アマゾン川から出て来たシャーマンの声は邪夢に届かず、仕方なく自分だけ抜ける事にした。

「くらえ！必殺b r e a d クラツシュ！！！」

・・・と言ってもただ円陣になって体当たり、いや突進をするだけなのだが、ダイヤモンドカッター数機分の威力になる。

だって装甲パンですよ！？

さすがパン屋の力。

しかし、見て分かれるとおりドキン軍の方が科学力があるように感じる。

それは、邪夢の管轄である5154銀河連盟は地球に優しい軍隊を

目指しており、主にパンを主要としているからだ。

たとえクズがでてもちゃんと黴が生えて土に帰る。

それに大してドキン軍は未来の人類科学みたいなもの。

やっぱりドキン軍の方が強いじゃんって？バカを言っではいけない。

銀河には数えきれないほどの太陽系に似たものがある。

そして、また数えきれないほどの銀河系がある。

一つの銀河系には科学を極限まで極めた星が大体一つある。

そして、そのような星は他者と嫉み、罵り、争い、殺し、殺され、
・この憎しみと復讐で満ちあふれたどうしようもない悲惨な歴史
を何千回と繰り返してきた。

大地はただの荒れ地になり、氷河期に突入し・・・だから、こんな
哀れみた歴史を創らぬよう他の星を監視するようになった。

間違った方向になったら修正する。

そして、領土的野心を持たないという理念のもと、宇宙保全理事局
が設立された。

しかし、監視業務を宇宙保全理事局のみでやるのは不可能。

そこで、全銀河系から文明が一番発達した種族一種に全てを話し、
監視業務を委託するように

なった。

5154 銀河は発達した星がいくつかあるため連盟を組んだ。

各太陽系の周辺を監視することになっており、古代からパン文明が発達してきた邪夢の星では政府とは独立した組織（簡単に言うとMIBみたいなもの）が駐在監査員を派遣している。

しかし、地球にはドキン軍という不安要素があり、責任も伴うので長の邪夢が抜擢された。

この星に来て、正体がバレルのはヤバいので、最初は普通にパン屋を営んでいた。

バイキンマンが町を荒らしていても、本部の排除許可がでるまでは堪え忍んでいたわけだ。

ちなみに宇宙保全理事局の科学力は・・・最高まで極められている。

化学は、人工的に全ての原子を核融合の膨大なエネルギーを発生させずに造ることができる（そのことにより金の値段が大幅下落）。

生物学は人工的に命を作り上げることができる（死者復活、記憶の操作、遺伝子操作で気に入った人間を作成、いい例がぱんまん）。

物理学は、宇宙の広がる速さより速く移動することができる（近日宇宙の外が明らかになるらしい）。

まあ、唯一できないとしたら、タイムマシンぐらい。

あれは根本的に無理な話ですよ。

とにかく、全ての学問が全項目において発見されたのじゃ。

・・・無駄な話が結構長引いて申し訳ない、いよいよ、後に『バイキンマンとアンパンマンの最終戦争』と記されるこの戦いは終わりを迎える。

最後に笑うのはアンパンマンか、バイキンマンか、ドキンなのか、邪夢なのか、はたまた北の將軍さまか・・・結末はいかに！！！！

第11話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第12話

「一番左の奴！座標（ 3 , 0 . 1 5 2 , 1 ）だ！！おめえがずれてるせいで 2 r = 3 にならんだろうが！！早く移動しろ！！！
！そうしたら、自動操縦に切り替え極限まで気を高めるのじゃ！！
！！！！」

「んなこといわれても半径無理数じゃん！しかも単位わかんねーし。
まあ、とりあえず自動操縦にしといてやるか。」

「よしっ！イクゾツ、必殺 b r e a d クラッシュ！！！！！！！！」

キユイーーーーー………ドッカアアアアアン……

あの歯医者ドリルのような音があったあと、あのUFOは跡形もなく消え去っていた。

「（邪夢）やった！！やったぞ、皆の者！！！！やつとドキンを葬り去ったぞ！！！！よし、帰って本部に報告じゃ。………？………
………おかしい………機体がこれ以上進まん………なんか火花が散ってるし………何だこれは………」

「（ドキン）教えてやろう、おまえらはその球の中からはでられない。安心せよ、今消してやる………」

「お前はさっき爆発したUFOの中にいたはずじゃ！！なぜ生きている！！？」

「（ドキン）ワカランのか？畏だよ、畏。パン屋は昔から閃きだと

聞くが・・・まさかお前も例外でないとはな。」

「（必殺技に参加しなかったシャーマン）邪夢さん！だから言ったじゃないっすか！！今助けるから待っててください！！！」

「（ドキン）そのお前、この味の素特製調味料五百セットが欲しいのではないか？確かお前の国は調味料は食してはいけないはずだよな？この世界各国から選りすぐって選んだこれをお前にやろう。さあ来い！！」

シャーマンは邪夢達に深く一礼するとドキンの方に飛んでいった。まった。

思いもしなかったシャーマンの裏切り、ありえないぐらいの放射能すら無害の程度しか漏らさないこの球体から邪夢たちが脱出する確率は皆無に等しい。

絶体絶命の次元を超えているこの状況、もはやなるようにしかならない。

気が付くと、あのバイキンUFOからレールが延びていて、そこにはドキンが乗っていた・・・

「（アンパンマン）バイキンマン！！」

「（ドキン）すでに意識は無い。コイツは我々ドキン軍の科学の結晶、この偉大さを最期に捧められることに感謝しろ。」

「（カレーパンマン）お前に慈悲というものは無いのか！！」

「（ドキン）我は自らの夢を遂行するのみなり・・・塵と消えよ
！！！」

「（邪夢）・・・・・・・・やはりパンでは科学に勝てなかったのか・
・無念なり・・・・・・・・」

「（ドキン）NEUTRON bomb 発射型バイキンレールガン
照射！！！！」

「（メロンパンナ）いやあああああああ！！！！！！」

そして、ドキンが初めてニヤケ、ボタンを押す

第12話（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

第13話（終）

だが、その瞬間 一筋の光が球体を貫いた

球体は張り裂け、NEUTRON bombは凄まじい勢いで島に叩きつけられた。

その瞬間に発動、しかし謎の光がNEUTRON bombの臨界を上から抑えつけ、拡散できない核分裂反応は島をドンドン掘り下げている。

一秒もたたないうちに光はNEUTRON bombまで到達し、反応停止させた。

その直後、全世界はエルネギー大恐慌に陥った。

謎の光 それは宇宙保全理事局が作った対核用の兵器、nuclear obstacle 通称N邪魔は半径1億キロの範囲で核分裂を阻害するという画期的な兵器。

一発打ち込めば、核戦争は回避できるのは確かだが、同時にその星に深刻なエルネギー問題を与える。

何でかって？それは君、原子力発電所と言うものじゃよ。

ただの頑丈な鉄クズ場と化してしまうのだ。

勿論、peopleは原発が止まった理由など知るよしもない。

だから、N邪魔は最後の手段なのだ（N邪魔は最高機密事項なので、邪夢は勿論知らない）。

さて、なぜそれが突然空から舞い降りてきたのか？

話は最初のほうにまで遡る。

北の將軍様が核を搭載したテポドンを日本に撃ってきた。

しかしまだ日本は迎撃システムの創案中だったのでなすすべなし。

ちゅどーーん！！！！

日米安全保障条約を理由に、アメリカ軍が北朝鮮に核で報復しようとしていたのだ。

宇宙保全理事局は採択でN邪魔の使用を決定し、宇宙の広がる速さより速い速さ（まあ、俗に言うワープ！）で地球目がけて発射した。

それは良いのだが、理事局の地球の座標データは日本が大陸と繋がっていた時代より遙か昔の物だったため、相当な計算ミスをして到着地点がガラパゴス諸島になってしまったわけだ。

まあ、要するに偶然助かったワケ。

おお、邪夢はどこまで運が強いのやら・・・

その現場にいた全員は吹き飛ばされ、ナニがナニでどうなったのかさっぱり理解できていなかった。

「（邪夢）・・・なぜこんな場所で生きているんだ？？おお、よく見れば目の前に気絶したドキンが！！！！チャアアアアンス！！！！行け、モンスターボール！！！！！！」

宇宙保全理事局の罪人逮捕法の3項には、罪人はモンスターボールで捕獲しなければならないと規定されている。

「ドキン逮捕完了！！これから本部へ連行する。だが・・・この状態をどうせよというのだ？」

するとそこへ・・・

ズゴゴゴゴオオオオ・・・

空の彼方からあの速さで邪夢達の前に理事局仕様の小型輸送機がきた。

「いやゝ邪夢君、お疲れさま！しかしまあ、ずいぶんと派手にやってくれたね。」

「あなたは！！宇宙保全理事局長！！！！いやはや、かたじけない・・・こんな相手にこれほどの犠牲を払ってしまうとは・・・人生の汚点です！！」

「そんなに自分を責める必要は無いよ、邪夢君。君はもう時期そんなことは忘れてしまふ。フッフ（ー）」

怪しい笑みを浮かべると、例の物を取り出した。

「（邪夢）そ、そ、それはニューラライ……………」

・・・ピカッ！！！！・・・

「（局長）いや、邪夢君、今日は君やパンマンたちと一緒にガラパゴス諸島の遺蹟発掘調査を行い、誠にためになった。君の働きには感服するよ。私はちよいと用事があるからこれで帰ることになるが、君たちは頑張って掘り続けてくれたまえ。では……………」

そう言うつとすぐに帰ってしまった。

お分りになっただろうか？

邪夢達は今日、この戦いの記憶は完全に封鎖され、一生懸命いい汗流しながら掘っている。

そして、この戦闘を目撃してしまった方々も、今は何事もなかったように平和に暮らしている。

地球上からこの事件は抹消され、間違った方向へ流れつつあった未来はパン屋に救われたのだ。

そう、これで万人が平和に暮らしていく…………

はずだった・・・

【この物語は事実を曖昧ながら再現しています。決して笑いをとるものではありません・・・なんちって（笑）】

第13話（終）（後書き）

作者の物語ブログ、『ごつとおぶぽぼす!!』も良かったら御覧ください!!!

<http://blog.crooz.jp/usr/azaz/>

アンパンマンTRANSIENT 00

あの大戦から三年　ガラパゴス諸島で新事業に成功し、平和に暮らしていた邪夢達一行は再び戦火に身を投じることになった。

記憶を消された彼らに何が起こったのだろうか。

その頃、謎の白づくめ集団『スカラー教』を名乗る組織が水面下で着々と計画を実行へと移す準備を進めていた。

またもや地球、いや、宇宙の未来を悪い方向へと導いてしまうのだろうか。

大人気（？、完全に迷作ですよね（笑））アンパンマンシリーズ第2弾、そのうち配信予定！！

アンパンマンTRANSIENT 00(後書き)

この話の本編『新説アンパンマンTRANSIENT』はこちらへ

<http://ncode.syosetu.com/n7869a/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5707a/>

新説アンパンマン

2010年10月11日13時47分発行